

洛和会音羽病院

地域連携ニュース

8

〒607-8062 京都市山科区音羽珍事町2 TEL 075 (593) 4111(代) <https://rakuwa-otowa.jp/>

2025 August

脳卒中センターより

最新デバイスで効果的な治療を


 洛和会音羽病院 脳卒中センター 所長 **定藤 章代**
専門分野 脳神経外科、脳神経血管内手術

専門医認定・資格など

 日本脳卒中学会専門医/指導医
 日本脳卒中の外科学会技術指導医
 日本脳神経血管内治療学会専門医/指導医
 日本脳神経外科学会脳神経外科専門医/指導医
 臨床修練指導医、脳ドック学会認定医、ECFMG登録
 日本神経放射線学会 理事・副理事長

2025年4月に脳卒中センターを開設し、脳神経内科、脳神経外科の協体制のもと、24時間365日で脳卒中の治療にあたっています。

脳神経外科は3人増員し6人体制で、血管内手術や開頭手術をいつでも行えるようマンパワーを備えました。

急性期に行う治療としては急性期脳梗塞の血栓回収やくも膜下出血例での脳動脈瘤治療が主体ですが、予防的治療や慢性期の治療にも力を入れています。

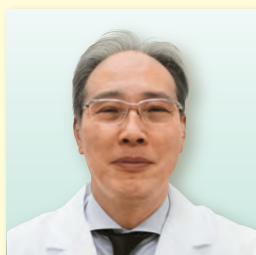
特にくも膜下出血の原因となる脳動脈瘤は、血管内手術の**新たなデバイス**の出現によって以前よりもさらに低侵襲かつ効果的な治療となっています。

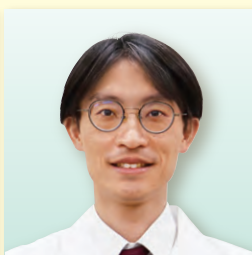
脳卒中センター

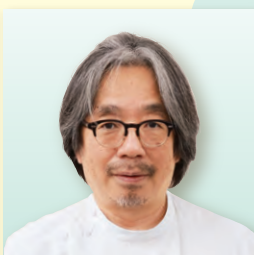
脳神経外科

脳神経内科

裏面で紹介します


 脳卒中センター
 副所長

 い さ か ふみあき
井坂 文章

 脳神経外科
 部長

 な が た まなぶ
永田 学

 脳神経外科
 部長補佐

 や ま も と かずお
山本 一夫

 脳神経外科
 副部長

 や ま ぐ ち まこと
山口 真

 脳神経外科
 シニア・レジデント

 むこうひら ひさ
向平 妃沙

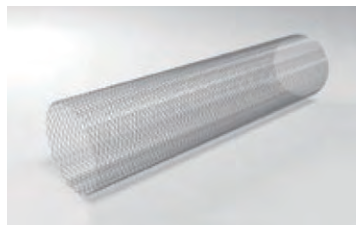
デバイスを駆使し 脳動脈瘤に対する治療成績向上へ

従来は金属製コイルでの充填をしてきましたが、ネックが広いなどの理由で困難な場合や再発の問題がありました。Flow DiverterとWoven EndoBridgeデバイスはこれらを解決し得るデバイスです。海外では以前から使用され成績良好であることが報告されていますが、まだ日本では使用できる施設が限定的なものもあります。当センターでは最新のデバイスを含め全て使用許可を得ており、患者さんの病状に合わせて最良の治療を提供できるよう努めています。



フロー ダイバーター Flow Diverter (略称:FD)

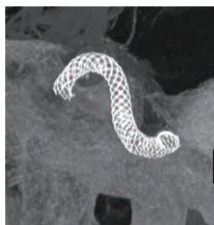
動脈瘤の親血管に留置することで動脈瘤自体が血栓化し閉塞するものです。



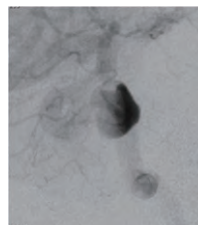
画像提供：日本メドトロニック株式会社



内頸動脈海綿静脈洞部の大型瘤(矢印)



留置したフローダイバーターのCT像



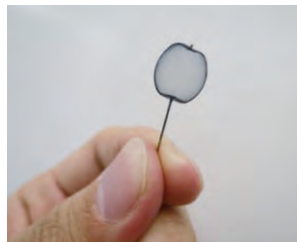
Flow Diverter留置直後のCT: 瘤内で造影剤が停滞している



4カ月後: CTAで動脈瘤が閉塞していることを確認

ウーブン エンドブリッジ Woven EndoBridge デバイス (略称:WEB)

金属のネットできている、俵型に膨らむデバイスで、瘤内に留置します。



WEBによる中大脳動脈瘤の治療



半年後 完全閉塞

未破裂脳動脈瘤は症状が出る以前にMRIなどで偶然に発見されることが多いため、ご心配な方は当院の健診センターでも行っている脳ドックの受診をおすすめいたします。

患者さんの病状に合わせて
最良の治療を提供できるよう
努めています。



洛和会音羽病院 地域連携課

業務時間

月～金曜日：午前8時30分～午後8時
土曜日：午前8時30分～午後5時15分

連絡先

地域連携課直通

TEL 075(593)7725

FAX 075(593)4160

E-mail otowa@rakuwa.or.jp

ご意見・ご質問・ご要望などございましたら
ご連絡ください。

医療機関予約専用フリーダイヤル 0120(607)489